

朝夕とも気温が落ちつも、車窓から見るガソリンの価格表示が気になる今秋です。

表紙の写真は前医師会報担当理事で、現公立久米島病院院長村田謙二先生にご提供頂きました。先生宅も原油価格高騰の煽りを受けていたようで（詳しくは表紙裏の写真紹介文「所変われば…」を参照）ご夫妻恒例旅行が復活され、会報表紙へも美しい写真や絵画をご紹介いただけるようお願いしております。

「報告コーナー」からは、次の3題をトピックスとしました。

宮里善次理事より「九州ブロック学校保健・学校医大会関連行事」での①心臓検診の異常所見の精査結果について、②九州沖縄の腎疾患データベース化について、③麻しんの予防接種率向上について、④学校医確保問題について等の協議結果について。

依光たみ枝・銘苺桂子先生より女性医師問題や勤務医問題などを協議された「第4回男女共同参画フォーラム」の感想を述べられています。

玉城信光副会長、安里哲好理事より「台中市医師公会交流会」の様子を伝えて頂きました。台湾の医療保険は皆保険制度であり、海外から評価が高い皆保険制度は、20～30%の診療報酬カットに医療関係者が耐えることで成立している事実には衝撃を感じました。

今回のトピックスは、どれも現在の日本国内沖縄県内の医療事情に直結した話題について詳しく書かれており、ぜひ会員の皆様にもご一読頂きたいと思っております。

特定健診等Q&Aのコーナーでは、玉井修理事から特定健診に用いられる基準値やその問題点についてまとめて頂きました。

生涯教育コーナーでは、新生児脳障害の代表的疾患 低酸素性虚血性脳症（HIE）の予防・治療法として期待される「新生児脳低温療法」について吉田朝秀先生に、また高齢化で増加する肺がんの診断・治療として注目される「CTガイド下肺生検」と「肺腫瘍ラジオ波凝固療法」について村山貞之先生に大変ご丁寧にまとめて頂きました。

プライマリ・ケアコーナーでは、大嶺 啓先生に「子どものスポーツ指導」と題して、スポーツの語源、本来の目的、成長・発達の特徴などから、現代の小児期スポーツの抱える問題点・指導法についてまとめて頂きました。子どもの

クラブ活動などにのめり込む親御さんをよく見かける今日、「スポーツの楽しさを教える」「好きにやらせて細かい指導はしない」という先生の言葉は、早速使わせて頂こうと思います。

今回のインタビューのコーナーは、新しく南部地区医師会長に就任された名嘉勝男先生です。ご開業から今日までの医師会活動、会長としての今後の抱負、今後の医師会のあり方などについて語っていただきました。

月間（週間）行事お知らせとしては安里英樹先生に「骨と関節の日2008」について、中村清哉先生には「麻酔の日（10月13日）」について、安里良盛先生には「10月10日目の愛護デー」について、石川和夫先生には「沖縄県糖尿病週間（10月25日）」について、それぞれ詳しくご紹介いただきました。ぜひ御一読頂き、各行事に御理解御協力をお願いします。

発言席では、久田友治先生に、プリオン病感染と洗浄・消毒・滅菌の重要性についてのご発言ご指導を頂きました。私もかつて開頭手術に携わっていましたが、当時はプリオン病に対する認識は薄く、凍結乾燥硬膜の問題をふくめ複雑な気持ちで拝読いたしました。

県立宮古病院 金城武士先生には、「若手コーナー」で医師としてのキャリアの一つとしての「大学院生活」について、貴重な発言を頂きました。最近、若い医師の臨床知識、経験などが取り沙汰されることが多くなっていますが、医学自体のレベルを将来にわたって支える医学基礎研究について国や社会、臨床医のレベルでも今一度見直す必要があるのではないのでしょうか。

「随筆コーナー」は、表紙に素晴らしい写真を頂いた村田謙二先生と琉球病院院長村上優先生からそれぞれ趣のある随筆を頂きました。沖縄の医学史や沖縄の楽しみ方まで、楽しく拝読させていただきました。

本号には大変多くの会員の先生方から御寄稿いただきました。

一部の内容について触れさせていただきましたが、全体として大変内容の濃いものであったと思います。今回も医師会報を発行でき大変感謝すると共に、今後も本誌の活動に御理解御協力頂きますようお願い申し上げます。

広報委員 比嘉 靖